

佐賀県研究成果情報（作成 2020 年 3 月）

- [情報名] ニホンナシ「幸水」の加温ハウス栽培における台木別の樹体生育と開花特性
[要約] ホクシマメナシ台は加温開始直後の発根量が多く、開花が早く揃いが良い。ホクシマメナシ台およびマメナシ台はヤマナシ台よりも新梢伸長が旺盛で発芽不良の発生率が低い。
[キーワード] ニホンナシ、台木、発芽不良、加温ハウス栽培
[担当] 佐賀県果樹試験場・落葉果樹研究担当
[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp
[分類] 技術者参考
[部会名] 果樹
[専門] 栽培

[背景・ねらい]

ニホンナシ「幸水」の加温ハウス栽培では、発芽不良の発生により収量低下が問題となっている。これまで県内ではヤマナシ台の苗が利用されてきたが、他の台木を用いることで発芽不良の発生程度が異なることが考えられる。そこで加温ハウス栽培における台木別の樹体生育特性を把握し、開花への影響を調査する。

[成果の内容]

1. 加温開始直後の発根量はホクシマメナシ台、マメナシ台、ヤマナシ台の順で多い（図 1）。
2. ホクシマメナシ台、マメナシ台はヤマナシ台よりも新梢長が長い。また、ホクシマメナシ台は花芽着生率が高いが、ボケ芽の発生率が高い（表 1）。
3. 開花開始はホクシマメナシ台が早く、開花の揃いが良い（図 2）。
4. ホクシマメナシ台、マメナシ台はヤマナシ台よりも発芽不良の発生率が低い（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は加温ハウス内に植栽したジョイント V 字樹形樹を利用して行った。
2. 発根量は樹の株元から 1m 位置に設置したアクリル板（深さ 35 cm、幅 100 cm）に沿って発生した根の総伸長を調査した。
3. ボケ芽（鱗片のゆるんだ花芽、写真 1）や秋季の芽枯れ発生については、夏季に樹上散水を実施することで発生を抑制できる（平成 29 年度成果情報）。



写真 1 ボケ芽（鱗片のゆるんだ花芽）

[具体的なデータ]

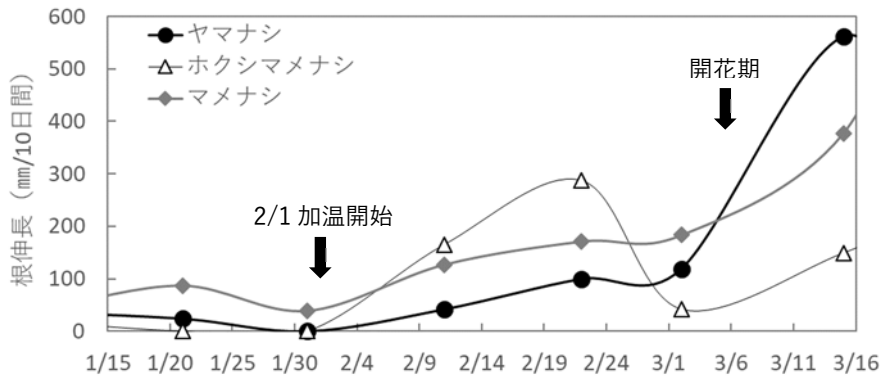


図1 台木の違いが加温ハウス栽培‘幸水’4年生樹の加温直後の発根に及ぼす影響 (2019)

表1 台木の違いが加温ハウス栽培ジョイントV字樹形‘幸水’の新梢生育に及ぼす影響 (2019)

台木	平均新梢長 (cm)	芽数 (個/本)	花芽数 (個/本)	花芽着生率 (%)	二次伸長発生率 (%)	ボケ芽発生率 (%)
ヤマナシ	106.6	23.4	19.2	82.0	50.0	1.9
ホクシマメナシ	122.4	24.3	87.3	35.0	5.2	
マメナシ	121.5	25.1	18.3	72.7	70.0	1.4

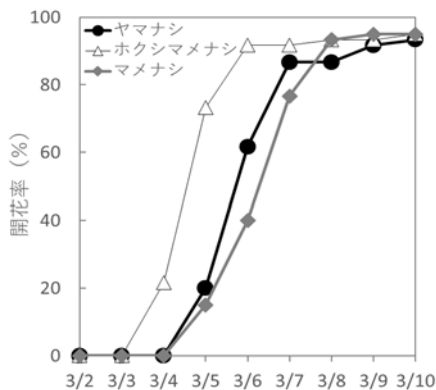


図2 台木の違いが加温ハウス栽培‘幸水’5年生樹腋花芽の開花に及ぼす影響 (2020)

※各台木樹の腋花芽60個のうち、花そう内の花3個が咲いたものを開花とみなして、調査した。

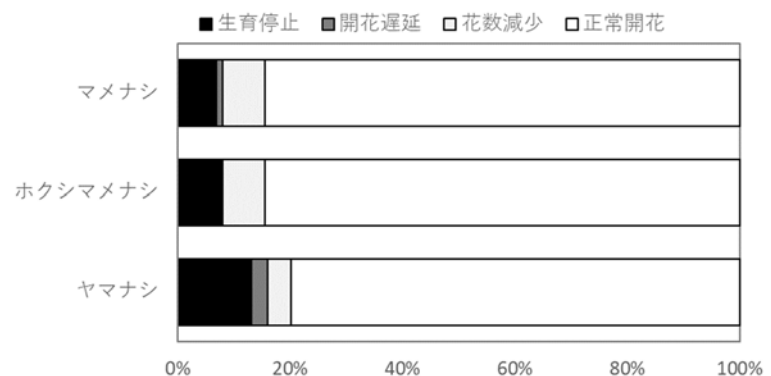


図3 台木の違いが加温ハウス栽培‘幸水’5年生樹腋花芽の発芽不良発生に及ぼす影響 (2020)

※発芽不良の症状は下記のように分類した
 生育停止：花芽の生育が停止して開花まで至らない
 開花遅延：開花期よりも極端に遅れて開花に至るが授粉できないため、生産できない
 花数減少：正常に開花するものの、花そう内の花数が3個以下で授粉、生産は可能

[その他]

研究課題名：台木でかなえる！ナシの超高収益栽培と省力型樹形の開発

予算区分：県単

研究期間：2019年

研究担当者：加藤恵、原口俊輔、太田政隆

発表論文：